

生活指導部会

林 信

「生活指導ってなに？」

「生活指導とは何ですか」と問うて、どんな答えが返ってくるのでしょうか。

「学習に必要な物を忘れずにもって来るようにすること」

「先生や友だちの話を聞けるようにすること」

「友だちと仲よく遊べること」

「廊下は走らず、右側を歩けるようにすること」

などが、**「生活指導」**の領域という考えが返ってくるような気がします。はたして、そうなのでしょうか。生活指導と似たことばに**「生徒指導」**があります。先の答えは、この**「生徒指導」**のことなら当てはまるでしょう。給食の指導や、図書室の使い方の指導は、どうでしょうか。特別活動の**「学級指導」**のなかで行うようにと、学習指導要領にはあります。

では、教科指導の授業中の手の上げ方

や発言の仕方（イスを入れてからなど）は、**「教科指導」**に入るのででしょうか。

そうではないでしょう。**「生活指導」**だと言う人がいるでしょう。「いや、教科指導の中で培われるべきことだ」と断言する方もいるはずです。

このように、生活指導の領域がはっきり示されることはないまま、学校生活のほとんどを**「生活指導」**として見る現状があります。もつとと言うと、教科の授業以外は、全て生活指導の部分として扱われているということです。朝の教室での出来事は、全て生活指導として扱われ、休み時間の過ごし方も。そして、放課後や家庭でのことも。

かつて、「〇〇小の良い子の一日」というパンフが配られ、学校生活での過ごし方のモデルが出されていました。それが、現在は「〇〇小スタンダード生活編

・学習編」などと衣替えして登場しました。新旧の違いは、「スタンダード」から外れたり、違反したりすると**「指導」**対象になるということです。努力目標として**「モデル化」**されたものと、取り締まり的に出されたものとの違いです。

生活指導部会では、「スタンダード」方式が、なぜ広がるのかという問題意識を持って、論議をしてきました。同時に、学級で育つ子どもたちの姿も追いかけてきました。また、担任や教員の指導の課題については、実践を通して追究しています。「児童理解」とか、「寄り添った指導」とか、仲間との「つながり」とか、「共感」とか、「共同」、「協働」なども実践を基にして、論議していきたいと考えています。新たな課題として、「キャリア教育」が特別活動の中に入ってきました。係活動や委員会活動が、「キャリア教育」として位置づけられるようになるのでしょうか。「特別活動」と「生活指導」は違うのですが、活動の部分では重なります。子どもたちの自主的な活動を創り育てるという視点からも、研究課題にしていく予定です。

(共同研究者)